



元国土交通事務次官  
毛利 信二

## 続く感染症との闘い グローバリズムの真価が問われる

もつり・しんじ 松江  
市出身。東京大学法学部卒。  
1981年建設省（現国  
土交通省）に入省し、国  
土交通省人事課長、土地  
・建設産業局長、総合政  
策局長、国土交通審議官  
を経て、2017年7月  
に国土交通事務次官。18  
年8月に同省顧問に就  
き、19年2月から三井住  
友信託銀行顧問。京都市  
副市長、東京大公共政策  
大学院客員教授も務め  
た。62歳。

新型コロナウイルスの災禍が見通せず、生活だけでなく社会・経済にも不安と沈滞ムードが広がる。政府の新たな経済対策が少しでも安心をもたらしてくれることを期待したい。

新型コロナウイルスの災禍は、感染力もさることながら現代のヒト・モノ交流の広がりやスピードを思い知らせるとともに、グローバリズムの潜在的なリスクも露呈した。

中国は、2010年に日本を抜いて世界第2位の経済大国となった。今や世界最大の輸出国、サプライチェーン

の中心的存在、そして米国の対外貿易赤字額の半分近くを占める国である。安全保障

政策と密接に関わるIT覇権争いも絡み、トランプ政権でなくとも米中貿易対立は先鋭化していったと考えられている。

その米国を含め、これだけグローバリ化に対し、感染

拡大の前から世界の主要国はナショナリズムのうねりに身を投じているように見える。

これを近代史の必然とする見方もあるが、東西冷戦が終結した際には「歴史の終わり」と言われ、対立勢力がぶつかり合う意味での歴史は終わったと見られた。

しかし、世界ではその後さまざまな抗争が続き、しかもちょうど文明間の断層で起こることから「文明の衝突」と評されるようになった。そして、それ自体がグローバリ

化の果たして反動なのか、明確な解の見つからないうちに、国境に壁を築き、経済同盟から離脱するなどナショナリズムが先鋭化し始めたのは

事実だ。

イギリスのEU離脱は、反米主義のフランスのゴリゾムに思想的淵源を遡る共同体

とは相いれないものもあつたのかもしいないが、経済と移民の問題だけで判断されたことは果たして正しいのだろうか。こうした問題提起がイス

ラエルの歴史学者からなされている。

グローバリ化の流れは続き、世界はナショナリズムでは答えきれない課題を抱えていると彼は訴える。端的

にはITとバイオ技術の融合は雇用や生態系などに深刻な影響を与えうるし、地球環

境問題、核戦力などグローバ

な主張である。あたかもパスポートを所持して国境を越え蔓延していくこの感染症にも

各国が共同で当たらなければ、ワクチンの開発・普及を急ぎ、社会や経済を不安から解放することは困難に思える。

それまでわれわれにはなす術もないのか。このウイルス

に対して今のわれわれはあまりに非力で、まるで戦力に圧倒的な差がある戦いを強いられるかのような。しかし、

攻撃手段が乏しくとも抵抗し続けて「負けない闘い」を貫

き、最後に打ち克った史実はいくつもあ

る。一人一人がこのウイルスに抵抗し、負けない闘いを続けていきたい。

### プロフィール

もつり・しんじ 松江  
市出身。東京大学法学部卒。  
1981年建設省（現国  
土交通省）に入省し、国  
土交通省人事課長、土地  
・建設産業局長、総合政  
策局長、国土交通審議官  
を経て、2017年7月  
に国土交通事務次官。18  
年8月に同省顧問に就  
き、19年2月から三井住  
友信託銀行顧問。京都市  
副市長、東京大公共政策  
大学院客員教授も務め  
た。62歳。